

2026 年 7 月 30 日開催
2027 年 3 月期第1四半期 決算説明会での主な質疑応答

Q1. 第 1 四半期の営業利益が前年同期比で増益となった一方、計画比では小幅な上振れにとどまっている。中東情勢影響を踏まえ、今後の収益動向をどう見ているのか。

第 1 四半期は増収増益となり、計画も達成した。一方で、中東情勢の影響については、第 2 四半期に最も大きく顕在化し、利益面での影響も相対的に大きくなると見込んでいる。調達価格の上昇は第 2 四半期がピークになり、下期は第 2 四半期ほどの上昇は見込んでいない。10 月の価格改定後も販売モメンタムの維持に努めつつ、収益性の改善を図っていく考えである。中東情勢の影響を織り込んだうえで、通期計画の達成に向けて取り組んでいく。

Q2. 中東情勢影響による営業利益の想定額△30 億に変更はないのか。原材料価格が第 3 四半期以降に落ち着く見通しならば、想定額が減る可能性もあるのか。通期の見通しについてはどう考えているのか。

中東情勢による営業利益への影響額は、現時点では従来想定から変更していない。第 1 四半期では、国内の影響は想定を下回る一方、海外ではやや上振れている部分があり、全体としては計画を若干下回る水準で推移している。ただし、先行きには引き続き不透明感があるため、通期では従来の想定を維持している。調達対応や価格・規格改定などを通じて、全社で影響の最小化に取り組んでいる。通期見通しについては、今後のばれいしよの収穫状況なども踏まえ、必要に応じて見直す。

Q3. 国内の足元の消費動向や 10 月以降に予定されている価格改定の受容度についてどう見ているか。

足元の販売動向は、全体として堅調に推移していると認識している。第 3 四半期には価格改定を予定しているが、同時に需要期でもある。第 2 四半期からマーケティング活動を強化し、販売基調の維持・向上に努めていく。

Q4. 北米では基盤強化等の新成長戦略に向けた取り組みを開始しているが、近い将来に成果が確認できそうなものや、注目すべき施策はあるか。また、PB・OEM の売上減少はどのように見ればよいか。

北米では、第 1 四半期は営業・マーケティング人員の強化など、将来成長に向けた先行投資を行っており、下期以降の成長に向けて、製品ラインアップの拡充やデジタルマーケティング施策の準備を進めている。これらの施策の効果は下期以降に徐々に顕在化していくと見ている。

PB・OEM については、利益構造の改善を目的に、収益性の低い SKU の整理や取引内容の見直しを進めたことが売上減の主因であり、利益への影響は限定的と認識している。北米の減益については、成長戦略に向けた体制強化費用や一部物流費の上昇などが影響しているが、利益は計画を上回って推移しており、収益回復や生産性改善に向けた取り組みも進展している。

Q5. 英国事業が減収減益となっている背景は何か。これは続くのか。

英国では市場環境が厳しい中、主力ブランドである「Seabrook」の販売が軟調に推移している。収益面では、生産トラブルによるものではなく、売上減に加え、中東情勢の影響などによるコスト上昇が影響した。一方で、GLP-1 関連の消費動向を背景とした Better for you 商品や、アジアンテイストスナックへの関心も見られており、大手小売において限定的ながら新たな販売機会も確認されている。第 2 四半期以降は、価格改定などを通じて収益改善に取り組んでいく方針である。

Q6. 第 1 四半期アジア・オセアニアの利益は良いが、今後のモメンタムの持続性をどう見ているか。

中華圏、タイ、豪州・ニュージーランドが利益成長をけん引しており、前年後半からの基調に大きな変化はない。特に中華圏では、小売店舗向け売上や「Jagabee」の販売が伸長している。一方、中東情勢の影響が顕在化しており、今後は第 1 四半期ほどの増益率が継続することは想定していない。

Q7. 海外全体でリベートが増えており、売上に対する比率も上がっているように見えるが、その狙いは何か。

リベートについては、北米、中華圏、豪州・ニュージーランドなどにおいて、売上成長に向けた販売施策として計画通り活用している。特に北米では、「Harvest Snaps」の販売拡大や「かっぱえびせん」などの Legacy ブランドの販売回復に向けた取り組みにも活用している。

Q8. 米国産ばれいしょの輸入解禁が進んだ場合、カルビーのビジネスにどのような影響があるか。

現時点では、当社の事業環境に大きな影響を与えるものではないと認識している。当社はこれまでも海外産ばれいしょを輸入・使用している。また、害虫や病害への対応についても一定の知見を有している。一方で、足元では円安の影響により、海外産ばれいしょと国内産ばれいしょの価格差が拡大しており、海外産ばれいしょを輸入して国内でスナックを製造する場合、収益面を考慮すると慎重な判断が必要である。当社では、製品を安定的に供給するため、調達リスクの分散を目的に使用するばれいしょの一部を海外から調達する方針を継続している。

以上